

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079800233		
法人名	有限会社 あきの		
事業所名	グループホーム ひなたの家		
所在地	福岡県田川郡福智町弁城2482 - 1		
自己評価作成日	平成22年7月31日	評価結果確定日	平成22年9月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年8月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本人の外出、買い物等の希望があれば、出来るだけ外出するようにしている。訪問マッサージの希望があれば取り入れている。知的障害者施設の園生の事業所の敷地内の清掃を受け入れており、今後、交流を図っていく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景や山々の彩の変化を眺めることができる豊かな自然環境の中にあり、広い敷地に余裕を持って建てられている2ユニットの事業所である。木の温もりが多用されたゆとりある生活空間は、入居者の方々がそれぞれの場所で過ごせるよう工夫されており、職員のさりげない見守りが行われ、一人ひとりの自由な時間の流れを大切に支援している。また、センター方式を採用して実施されているアセスメントは介護計画作成に十分に活かされ、地域との関係性や趣味活動等が具体的に盛り込まれている。外出や役割づくり等の個別支援の実践にもつながっており、個別や少人数での外出・外出に出掛け、買い物を楽しむ機会も作りながら、日々の暮らしが活性化するように支援している。今後は更にネットワークを広げながら、地域拠点としての役割を發揮されることが期待される事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然に包まれた家庭的な環境の中で、利用者の体調管理は勿論、その人らしさを最大限に出して頂く為に生活層からの役割、楽しみ事等、出来るだけ利用者本位に沿ったサービスの提供を基に理念を作成しており、それを職員全員で共有し実践している。	地域密着型サービスとしての果すべき役割を明確に示した理念を、室内各所に掲示している。毎日唱和する中で、理念を心に刻み、その実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な散歩により、地域住民との挨拶程度の交流は実践している。	日常的に行われている散歩の途中で、気軽な挨拶を心がけている。地域の祭りへの参加・見学、また近隣の公民館でのミニデイへの参加等、少しずつ交流を育んでいる。知的障害者施設より園生が週1回訪れ、敷地内の清掃等を担当しており、今後は入居者との交流の機会を視野に入れている。	民家の少ない周辺環境ではあるが、地域との連携・交流については、まだまだ可能性を有していると思われる。地域資源の発掘・活用に向けた、ネットワークの広がりにも期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、地域交流を図っている段階であり、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の現況、行事、取り組み等を報告する。要望・質問に対して話し合い、そこでの意見をサービス向上に反映している。	運営推進会議は、入居者・家族・地元議員・職員等の参加により、開催されている。状況報告・活動予定・今後の課題等について意見交換が行われている。	現状としては、年5回の開催となり、地域からの参加も少ない状況にある。参加メンバーを柔軟に検討しながら、定期開催及び内容の工夫等に取り組んで欲しい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携については、事務的な面であるが、月に1回の町のグループホーム協議会において、事業所の実情や勉強会等の意見を市町村に通して協力関係を築いている。	毎月、地域の12箇所のグループホームが集まり、定例会議が開催されており、行政への働きかけを行ったり、情報共有に努めながら、連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、絶対に禁止である事を理解し、その上でケアに取り組んでいる。	日中は、玄関・勝手口ともに施錠されていない。行動傾向の把握、さりげない見守りの中で、自由な暮らしを支援している。業務日誌には、言葉による抑制等についての資料が明示され、日々職員間の共有認識を図っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の業務日誌に、高齢者虐待防止関連法についての資料を挟んでおり、日頃より目を通し虐待のないよう注意を払い、防止に取り組んでいる。		

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のパンフレットを置き、目を通して理解して頂くようにしており、利用者の家族等が必要であると判断された場合、それらを活用できるよう相談に乗る。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、資料等を準備し、必要時には活用に向けた支援・情報発信が行えるようにしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定時は利用者や家族等に十分な説明を行い、理解と納得を得ている。又、不安な事や疑問を伺い、出来るだけ要望に沿うように行っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見・要望は、直接管理者や職員に申し出て来られる事があり、それらを事業所の運営に反映させている。	毎月、運営者により「ひなただより」が作成されており、文章と写真の2部構成にて丁寧に日々の様子を伝えている。管理者・職員は、日々のコミュニケーションを大切に、家族が意見を表出しやすいよう関係作りに努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や直接の申し出で、運営に関する職員の意見・提案を伺う機会を得ており、運営に反映させている。	毎月の職員会議では、職員一人ひとりが必ず発言するようにしている。毎月、懇親会を企画し、職員とのコミュニケーションの機会を大切にしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の勤務態度を評価し、皆勤手当や割増賃金、残業手当等に反映させ、職員各自が向上心を持って働きやすいよう取り組んでいる。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に関しては、特に差別はしていないが、経験があった方が好ましい。働く職員について、出来るだけ希望に沿った勤務体制にして配慮している。	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行わないようにしている。毎月懇親会を開催し、ストレスケア・コミュニケーションの機会としている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	今のところ、職員等に対して人権教育、啓発活動に取り組んでいない。	業務日誌には、高齢者虐待防止に関する新聞記事や、言葉による抑制等の資料が掲示されており、日々のケアの中で確認しながら意識を高めるよう取り組んでいる。	行政等の協力も得ながら、運営推進会議にて講義をしてもらう等、家族・関係者も含めて、入居者に対する人権や認知症ケアについて考える機会を確保していく取り組みにも期待します。

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	町のグループホーム協議会にて勉強会が予定されており、職員等を参加させる予定。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回の町のグループホーム協議会にて議論が行われており、サービスの質の向上を図っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とのコミュニケーションを図っていく事で、本人の心の内を伺い、出来るだけ解決する事で安心出来るように努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等とのコミュニケーションを図っていく事で、家族等の悩み等を伺い、解決する事で安心できるように努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等との話し合いで、生活暦等より出来るだけ要望に沿った対応に努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一つの家族として本人と接しており、言動等に気をつけながら日常会話を行い、同情を分かち合うように努めている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを深めて、本人が出来るだけ本位に沿った生活が出来るよう家族に相談し、共に支援していくように努めている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と家族等が帰宅等の外出や知人との会合を希望した場合、出来るだけ希望に沿うように支援している。	近隣の公民館で行われているミニデイへ参加している。家族との会話のために携帯電話を所持している方もあり、外泊希望にも柔軟な支援を行っている。	

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は永年生きてこられた方々であり、人間関係を分かっておられ、利用者同士が自らコミュニケーションを図っている。図るのが苦手な方は、利用者同士の共通の話題や趣味等を伺い、関わりが持てるよう支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の本人と家族との関わりは殆ど無く、あった場合には、その後の状況について伺ったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者1人1人とコミュニケーションを深めて、思いや本位を伺い、出来るだけ本人の希望を尊重して支援している。	各担当職員により、センター方式を活用したアセスメントが行われており、定期的に更新されている。記録の為のアセスメントではなく、個別ケアの実践に向けた本人本位の検討が行われており、介護計画作成にも反映されている。生活暦等の把握により、個別の役割や楽しみごとの支援へとつなげている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族とコミュニケーションを深めて、生活暦や環境、これまでのサービス経過等の把握に取り組んでいる。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者や家族より1日の生活パターン、心身状況、出来る力の把握に努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の介護保険更新時や著しい心身状態の変化の場合、本人、家族、ケアマネ、職員間でサービス担当者会議を開き、課題やケアの仕方について意見を出し、本人が出来るだけ負担にならないような現状に沿ったサービス計画を作成している。	本人・家族・職員・看護師等が参加する担当者会議が開催され、充実しているアセスメントが活かされた具体的な内容での計画が作成されており、地域との関係性や趣味活動等が盛り込まれている。毎月のモニタリングを計画の見直しにつなげている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者1人1人の日々様子、行動、思い、変化等を記録し、職員間で共有し、サービス計画の見直しに取り組んでいる。		

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々要望に、出来るだけ応じられるよう柔軟な支援に取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日の生活必需品のお茶の葉やいりこの袋詰めを、定期的に本人の力に応じて手伝って頂いたり、冬場には干し柿の下拵えをされたりと、本人1人1人に役割を持たせる事で毎日の充実した暮らしを楽しんで頂けるよう支援している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診について、事業所では訪問診療を採用しており、納得のいく適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医・協力歯科医による定期往診が行われ、またかかりつけ医への通院にも柔軟に対応している。ホームの看護師により、医師との連携や服薬等についての相談が行われたり、また担当者会議へ参加することで、日々の健康管理や適切な医療活用つなげ、健全にやすらかな暮らしの実現に努めている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日常での状態変化のある場合について、看護師に連絡し、対応等を相談して、適切な受診・看護が受けられるよう支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時、こまめに病院関係者と情報を共有し、相談に取り組んでいる。入院時に備えた病院関係者との関係作りは特に行ってない。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について、本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできる最大限の事を説明し、方針を共有して支援している。	日々の暮らしの会話の中で、それとなく本人の意向確認を行い、家族との話し合いを行っている。本人・家族の希望により、これまでに看取りを行った実績もあり、家族・医療関係者との連携を図りながら、方針を共有している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生について、看護師に状況報告を行い、主治医のもと応急手当や初期対応の指示を仰いでいる。		

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策について、年に2回避難訓練を実施しているが、避難できる方法を職員が身につけておらず、夜間訓練については実施していない。地域の協力体制は築いていない。	年2回、避難訓練を実施している。出入り口(玄関・リビング・勝手口)には全てスロープが設置されており、多方向への避難が可能である。避難経路は各所に掲示されており、スプリンクラーも設置済みとなっている。	夜間を想定した訓練を含め、地域の協力を得ながら実践的な訓練が実施できるよう、運営推進会議等を活用して働きかけを行ってほしい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人1人人格が異なる為、自尊心やプライドを傷つせず、言動に気を付けながら声掛けや対応を心掛ける。	入浴時や排泄時、失禁時の声かけや対応には、特に留意し、誇りや尊厳を損ねないように心がけている。理念の中には「老人は永年にわたり、社会の進展に寄与してきた人生の先輩である。健全に安らかな生活が保障されるものである。」と示されており、心に刻みながら日々取り組んでいる。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での本人の本位を伺い、自分で決める事が出来るように取り組んでいる。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者1人1人の生活パターンを大切に、希望に沿った一日を過ごして頂いているが、食事・入浴の時間は決まっている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みや外出時に合った身だしなみやおしゃれを支援している。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回クッキングを取り入れて、利用者と職員と一緒に食材の下拵えを行い、食事をしている。	毎月、クッキングの日を設け、調理準備等に一人ひとりの力を発揮してもらっている。また、日々使用している、お茶の葉やいりこのパック詰をお願いしている。少人数での外出に出掛けたり、誕生日には好きなメニューを取り入れる等、「食」を楽しむ機会も多い。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はバランスの取れた食材業者からのメニューであり、食事量、水分量を確保する為に、利用者の状態に応じて、負担のないように出来るだけ摂取して頂けるよう支援している。		

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアは本人の状態によって毎食後の方もいれば、夕食後だけの方もいる。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の力、排泄パターンを把握し、定期的に排泄の声掛けを行い、出来るだけ失敗をしないように支援している。	個別の状態や排泄パターンの把握、またサインを見逃さないように努めながら、トイレ誘導や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を把握し、水分量を促したり、食物繊維を含むものを摂取して頂いたり、運動を促したりと、利用者に応じた予防をしている。それでも便秘が続く時は下剤に頼る。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴について、出来るだけ本人の希望やタイミングで楽しんで頂きたいと考えているが、都合により時間帯や曜日を決めている。	毎日、入浴準備を行い、週3回を目安として柔軟な対応を行っている。季節にあわせて菖蒲湯を楽しむ等、入浴を楽しむ工夫も行われている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活パターンや状態に応じて、安心できるような声掛けを行い、自由に休んで頂くよう支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の既往歴と服薬している薬を把握しており、確実な服薬の支援と状態の変化について観察している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者1人1人の生活歴と力に応じて、事業所での役割、趣味、散歩、外出、外食等によりストレス軽減を図っている。		

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>本人の希望や心身状態に応じて、例えば季節の草花散策や古墳見学に向かわれたり、外出の支援に取り組んでいる。</p>	<p>個別～少人数での外出や外食を、積極的に行っており、家族にも好評を得ている。希望や状況にあわせた日々の散歩や、外気に触れながらゆっくりと食事を楽しんだり買い物したり、また個別の希望の場所への外出等、積極的な支援を行っている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人がお金を所持する事の大切さを把握しており、1人1人の希望や力に応じ、所持や使用を出来るよう支援している。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望されれば、電話や手紙のやり取りができるように支援している</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関は明るく壁には利用者の作品を貼っており、広々と余裕が持てるように、廊下はフローリングでフラットに、椅子やソファを配置し休憩出来るようにしており、又手すりを設置して転倒を防止している。居間と台所と食堂は一体の共同スペースでテレビを御覧になられたり、談話されたり、洗濯物を畳まれたり、娯楽されたり、食事等と生活感があり、手作りカレンダーで季節感を出している。浴室、トイレは温度差がないようにし、又手すりを設置し安全に配慮して車椅子でも入れるように広くしている。</p>	<p>共用空間は余裕ある広さが確保されており、木の質感が多用され、温かい雰囲気にも包まれている。リビングにはソファや畳スペース、玄関ホール等には長椅子が配置されており、思い思いに過ごせる場所が確保されている。リビングからは、周囲の田園風景や木々の彩りの変化を眺めることが出来る。浴室・トイレにもエアコンが設置されている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間のどこでも、独りの自由な時間を過ごして頂いたり、廊下の椅子やソファや共同スペースのソファで気の合った利用者同士で談話をされたりと居場所の工夫をしている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は、本人と家族の希望に沿った自宅の部屋に近いレイアウトに仕上げられており、使い慣れた馴染みのある大切な物がいつでも目に入りやすく、使い易いように配置して、快適な暮らしが出来るように工夫している。</p>	<p>居室入り口には表札が掛けられ、使い慣れた家具や大切な品々が持ちこまれており、安心して、居心地よく過ごせるよう配慮している。生活感ある、個性的な部屋作りとなっている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室、トイレ、共同スペース、風呂場に表札、又居室に暖簾を取り入れたり、ドアに大きく名前を貼って各人の居室が分かるような工夫をしている。</p>		